

編集 後記

3月4月は異動の時期です。定年退官された先生方から業績集が送られてくる時期でもあります。業績集を拝見して一人の先生のお仕事に時系列的に接すると、その先生が仕事に込めてこられた思いがより鮮明になる気がします。最近、公衆衛生雑誌の50巻記念事業として冊子が送られてきました。また、あわせて総会60回記念座談会の冊子も送られてきました。これには平成13年から14年に記念事業として行われた座談会の記録が収録されています。これを拝読すると、斯界の大先輩の諸先生が公衆衛生学に込められてきた思いに触れることができます。それは同時にわが国の公衆衛生学の歴史にもなっています。各々の先生が述べられていることは各々に違いますが、「パブリックヘルスは対人保健医療に関するものである」、「社会正義のために、私たちは公衆衛生をやるのだ」、「地域保健が公衆衛生の基本である」、「個人の曝露量をきちんと把握しないことには、量反応関係なんていうことは言えない」、等々。また、青木國男先生が紹介されている野辺地慶三先生の名古屋大学での「公衆衛生」実習にも感銘を受けました。しかし、表現は異なりますが、共通なのは「マスとしての集団を構成している個々人の生活を理解しなくては、本当の意味での公衆衛生学（とその実践）にはならない」、ということではないかと思います。公衆衛生雑誌も50巻記念事業を終え、次の時代に向かって歩みだしたとも言えます。公衆衛生雑誌の編集の一端に関与させていただいている身として、諸先生の言われることの実践的な意味を求めて悩むところです。

(秋葉澄伯)

次号予告

論壇

ドメスティック・バイオレンス（DV）—公衆衛生の視点から—……………宇野日出男，他

原著

気道アレルギーの潜在的増大要因—気密性住宅および受動喫煙の関与の態様……………吉岡二三，他
地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因—
埼玉県H町の調査から……………金貞任，他
市町村における高齢者の要介護指標の評価

……………武田俊平，他
標準化死亡比の経験的ベイズ推定量による医療資源の死亡に及ぼす影響に関する研究—福岡県における事例……………大坪浩一，他
通信制禁煙プログラム「禁煙コンテスト」の評価
……………木下朋子，他

資料

健康危機に対応した保健所等の組織統合のあり方
についての研究……………山本覚子，他